

トラックからの落下物で・・・

人身事故 5年間で500件超 7人死亡

◇ 『荷締め』の確認、何度でも◇

2016年11月12日 18時55分

トラックから落ちた積み荷などの「落下物」が関係する人身事故が、去年までの5年間で全国で500件を超え、7人が死亡していたことが警察への取材でわかりました。専門家は、積み荷などの落下防止を徹底するため、ドライバーの教育などの対策を強化すべきだと指摘しています。

ことし4月、福井市で、走行中のトラックの積み荷の木材が落下して対向車線の乗用車に直撃し、1人が死亡した事故など、落下物が周りの車に衝突したり、落下物に乗り上げて転倒したりする事故が相次いでいます。

人身事故の詳しい状況が取材できた73件を調べたところ、落下物が衝突した相手は、対向車線の車両が最も多く37件、後続の車両が14件、歩行者が10件などとなっています。

一方、積み荷の落下防止を定めた道路交通法違反で検挙されたケースは、去年までの5年間で、回答が得られた32の都府県で少なくとも、合わせておよそ4800件に上りました。

3年前の12月、松山市の国道で、走行中のトラックの荷台から積み荷の板ガラスが落下し、対向車線の乗用車に直撃して、運転していた78歳の女性が死亡しました。

4年前の12月、広島県の国道で、走行中の大型トレーラーの荷台から1枚800キロの重さがある鉄板が落下し、対向車線の乗用車に直撃して、45歳と59歳の男性が死亡しました。

また、去年12月、北海道江差町の国道で、走行中のトラックの荷台からプレハブ小屋が落下し、対向車線の軽乗用車にぶつかった事故。

おとし12月、和歌山県の国道で、走行中のトラックから重さおよそ2トンの鉄製の筒が落下して対向車線の軽乗用車にぶつかり、乗っていた親子3人がけがをした事故など・・・、

一步間違えば、落下物によって命が奪われていたおそれのある事故も後を絶ちません。

落下物が関係する事故の背景の1つとして、専門家はドライバーの教育不足があると指摘しています。

運輸業では、教育など人材育成の取り組みが低い水準になっています。

積み荷の落下防止には高い技術と経験が求められますが、専門家は人手不足で人の出入りが激しくなる中、荷物の積み方などの教育が十分に追いついていないのではないかと指摘しています。

福井市で、走行中のトラックの積み荷の木材が落下して対向車線の乗用車に直撃し、1人が死亡した事故でも、トラックのドライバーは、仕事を始めて3か月で見習い期間中だったということです。

今後の安全対策について「トラックなどの場合は荷物を運ぶことが目的なので、運転技能だけでは事故を減らせない。自動車教習所で大型免許などを取る課程に将来的には荷物の積みつけの知識がないと合格できない仕組みを入れるべきだ」として、自動車教習所の課程に詳しい荷物の積み方の教育を加えることを提案しています。